

## 4週間のクロレラ摂取によりヒトの分泌型免疫グロブリンAの分泌速度は増大する

第9回日本抗加齢医学会総会（2009）で発表

### 【研究目的】

風邪やインフルエンザなどの病原体や異物の侵入に対して、唾液中に含まれる分泌型免疫グロブリンA (SIgA) は喉などの粘膜防御において重要な役割を果たしています。クロレラの経口摂取によりラットの免疫機能が高まったという報告や、ヒトの母乳中のIgA濃度が増大した報告などから、クロレラ摂取が唾液中のSIgA分泌に与える影響について検討するため臨床試験を行いました。

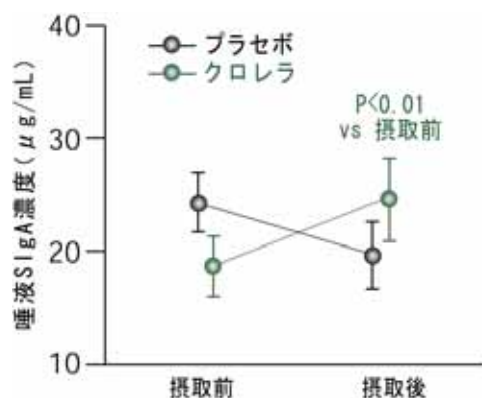
### 【試験方法】

健康な成人男性 21 名を対象に盲検法によるクロスオーバー試験を実施しました。被験者には 4 週間に亘りクロレラ粒またはプラセボ粒を 1 回 15 粒、1 日に 2 回、計 30 粒摂取してもらい、摂取の前後に唾液の採取を行いました。唾液採取は滅菌綿を 1 回/秒、2 分間咀嚼することで採取しました。採取したサンプルから唾液の分泌速度と SIgA 濃度を測定し、そこから SIgA の分泌速度を算出しました。得られた値はプラセボ群 (P 群)、クロレラ群 (C 群) の各々摂取前後で T 検定を実施しました。

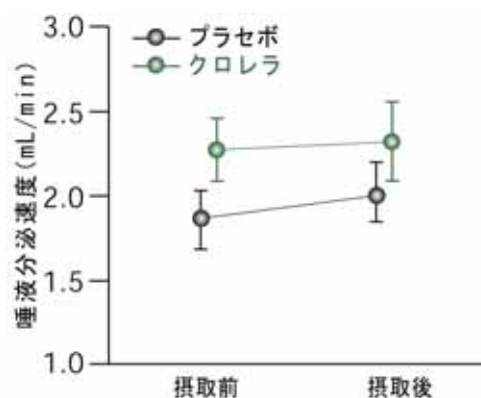
### 【結果】

被験物質の摂取率は P 群で  $97.0 \pm 1.0\%$ 、C 群で  $95.2 \pm 1.4\%$  であり両群での差は見られませんでした。SIgA 濃度について、P 群では摂取前後で変化しませんでした ( $p = 0.19$ )、C 群では摂取後び有意な増加が見られました ( $p < 0.01$ )。唾液分泌速度に関しては両群ともに摂取前後の変動は見られませんでした ( $p = 0.23$  及び  $p = 0.73$ )。SIgA の分泌速度は P 群では摂取前後で変化しませんでした ( $p = 0.32$ )、C 群では摂取後に有意に増大しました ( $p = 0.01$ )。

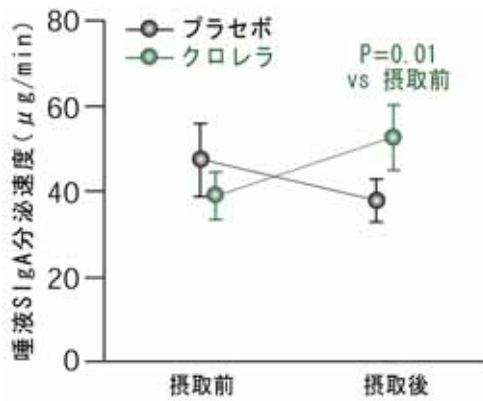
以上より、クロレラの 4 週間摂取により唾液中の SIgA 濃度と SIgA 分泌速度が増大し、口腔内免疫機能が向上することが示唆されました。



唾液 SIgA 濃度



唾液分泌速度



唾液 SIgA 分泌速度

### 《学会発表》

学 会： 第 9 回日本抗加齢医学会総会、2009年

タイトル： 4 週間のクロレラ摂取によりヒトの分泌型免疫グロブリン A の分泌速度は増大する

著 者： 大槻毅<sup>1)</sup>，清水和弘<sup>2)</sup>，家光素行<sup>3)</sup>，荒川ゆかり<sup>4)</sup>，河野一郎<sup>2)</sup>

所 属： 1) 聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 2) 筑波大学大学院 人間総合科学研究科

3) 環太平洋大学 体育学部 4) 株式会社 サン・クロレラ

この情報は、学術雑誌や学会において発表された内容の掲載であり、商品の販売促進を目的とするものではありません。